

# 春野町における民間口承文化財（昔話）の伝承による地域文化の保存継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 亀本梨央 川口璃穂 柴田俊輔

4年生 伊藤優華 藤井優 吉高里 ※4年生はサポート参加

## 1. 要約

浜松市天竜区春野町において民間口承文化財（昔話）を採録し、その記録と保存、公開と継承を目指す。地域に伝わる伝説や家庭に受け継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速度的な高齢化と過疎化によって昔話の伝承は急速に消え去ろうとしている。その記録と保存、公開と継承は、地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。

二本松康宏ゼミ（伝承文学）では、平成26年度、27年度、28年度にわたって同区水窪町において民間口承文化財の採録調査を実施してきた。平成29年度は同区龍山町において同じく民間口承文化財の採録調査を実施した。その成果は年度ごとに書籍として刊行され、日本昔話学会等においても高い評価を受けている。

そうした実績を踏まえ、平成30年度からは3ヶ年計画によって春野町において同様の採録調査を実施することになった。その2年目にあたる令和元年度は春野町のうち犬居地区を採録の対象地域とする。

採録した昔話は学術的な位置付けや記録価値を検証し、「民間口承文化財」としての保存（アーカイブ）を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説などを書き添え、これまでと同じように書籍としての刊行・公開を目指す。

浜松市天竜区春野町

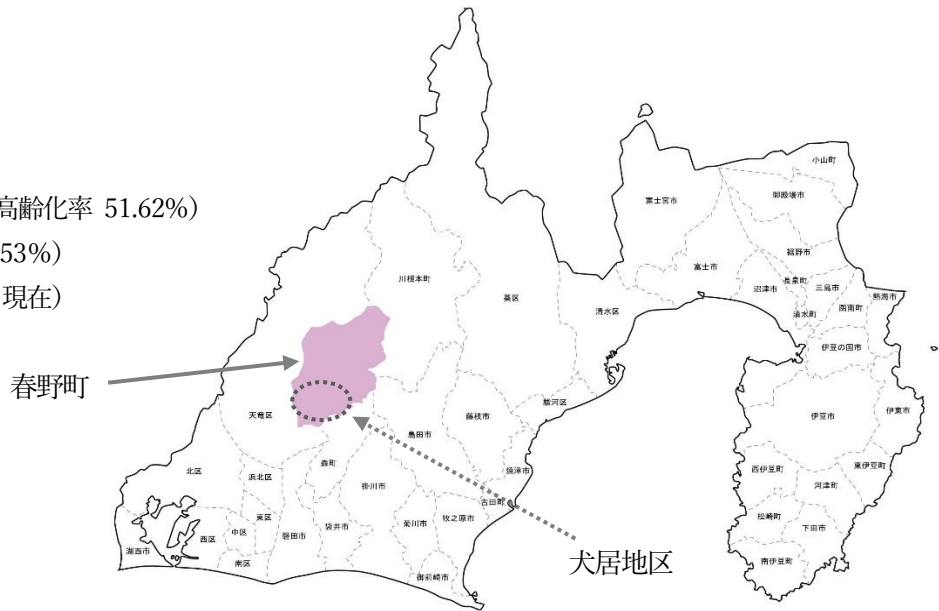
世帯数 1801 世帯

人口 4157 人

65歳以上 2146人（高齢化率 51.62%）

14歳以下 230人（5.53%）

（令和元年10月1日現在）



犬居地区の集落ごとの世帯数と人口（令和元年10月1日現在）

昭和31年以前	大字	世帯数	人口	65歳以上（高齢化率）		14歳以下	
犬居町	領家	130	310	128	41.29%	19	6.12%
	堀ノ内	299	658	351	53.34%	36	5.47%
	和泉平	55	139	63	45.32%	15	10.79%
熊切村の一部	胡桃平	9	19	14	73.68%	1	5.26%
	砂川	38	90	44	48.89%	7	7.78%
	大時	15	22	17	77.27%	0	0%
犬居地区全体		546	1,238	617	49.84%	78	6.30%

## 2. 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。

1970年代から1990年代前半にかけては昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃からは、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。

- ① 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。
- ② 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を自分の孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

### (2) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年（1985）には旧春野町教育委員会により『ふるさと春野の伝説』が刊行されている。しかし、同書に掲載された27話はすべて再創作（再話）と標準語化が施されている。口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

## 3. 研究の内容

### (1) 調査の方法

- ① 静岡文化芸術大学文化政策学部「伝承文学ゼミ」は、令和元年5月から12月にかけて浜松市天竜区春野町犬居地区において民間口承文化財（昔話）の採録調査を実施した。
- ② 調査は二本松康宏が監修し、ゼミに所属する3年生3名が実際の採録にあたった。
- ③ 昨年度に同町熊切地区での採録調査をおこなった4年生3名がサポートメンバーとして参加している。
- ④ 調査にあたっては、浜松市春野協働センターと地域の各自治会にご協力をいただいた。
- ⑤ 採録した話は「方言のまま」「語りのまま」に翻字・記録する。
- ⑥ 採録調査にあたった学生が伝承地域の解説を執筆する。
- ⑦ 民間口承文化財（昔話）を「地域と家庭に受け継がれた心と記憶の遺産」と位置付け、その記録・公開、保存・継承を目指して、書籍として刊行する。
- ⑧ 書籍の出版については公益財団法人静岡県西部しんきん地域振興財団からの助成を受けている。

### (2) 調査の記録

①	5月18日（土）	若身公民館、和泉平公民館	⑫	10月16日（水）	補足調査（個別訪問）
②	5月19日（日）	昭和公民館、砂川公民館	⑬	10月20日（日）	補足調査（個別訪問）
③	5月25日（土）	平尾公民館、胡桃平公民館	⑭	11月9日（土）	補足調査（個別訪問）
④	5月26日（日）	平野公民館、大時公民館	⑮	11月17日（日）	補足調査（個別訪問）
⑤	6月8日（土）	個別訪問	⑯	11月20日（水）	補足調査（個別訪問）
⑥	6月9日（日）	個別訪問	⑰	11月23日（土）	補足調査（個別訪問）
⑦	6月22日（土）	個別訪問	⑱	11月24日（日）	補足調査（個別訪問）
⑧	6月23日（日）	個別訪問	⑲	12月7日（土）	補足調査（個別訪問）
⑨	7月6日（土）	犬居公民館、静修公民館	⑳	12月8日（日）	補足調査（個別訪問）
⑩	7月20日（土）	東領家公民館、西領家公民館		12月14日（土）	補足調査（個別訪問）
⑪	7月21日（日）	個別訪問			

### (3) 採録調査の様子



### (4) 採録の成果

集団採録や個別採録において「話」を聴くことができた人の数（話者カードへの登録） … 52名  
採録話数 昔話 … 100話 伝説 … 65話 世間話 … 28話 言い伝え … 20話 計213話

※ 民間口承文芸（民話）の分類

伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは「恥ずかしいこと」とされがちで表に出にくい。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

### (5) 私たちのこだわり①…「語りのまま」「方言のまま」

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広まっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作（再話）された話が大半を占めている。昔話や伝説は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば文化財の改竄に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

### (6) 私たちのこだわり②…書籍としての刊行

採録した昔話や伝説の記録・公開、保存・継承を目指して書籍化



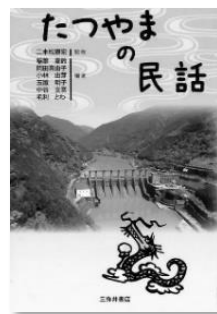
2015年3月刊  
浜松市 7図書館  
静岡県内 11図書館



2016年4月刊  
浜松市 16図書館  
静岡県内 16図書館



2017年3月刊  
浜松市 13図書館  
静岡県内 17図書館



2018年3月刊  
浜松市 11図書館  
静岡県内 14図書館



2019年3月刊  
浜松市 18図書館  
静岡県内 14図書館

新刊 春野の伝説と昔話（仮） 編著：亀本梨央・川口璃穂・柴田俊輔 監修：二本松康宏  
発行元：三弥井書店 発行予定日：2020年3月 A5版並製140頁 定価：1,000円（消費税別）

#### 4. 研究の成果

##### (1) 当初の計画

春野町犬居地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承の解説を書き添え、書籍として刊行する。

##### (2) 実際の内容とその理由

A（予定どおり）

##### (3) 実績・成果と課題

令和元年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。

##### (4) 今後の改善点や対策

次年度は春野町気田地区での採録調査を予定している。気田地区はこれまでの熊切地区や犬居地区に比べると人口が多く、集落域もきわめて広範である。実情にあわせた調査体制が課題になる。

#### 5. 地域への提言

熊切地区における民間口承文化財（昔話や伝説）は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、昔話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説だけでなく、家庭に語り継がれた昔話もあわせて、地域文化として継承して欲しい。たとえば、我々が刊行する書籍を春野町内の犬居小学校や気田小学校、春野中学校での地域学習に取り入れ、地域文化を学ぶための教材にさせていただけるとありがたい。

#### 6. 地域からの評価

##### 浜松市春野協働センター 副所長 竹村吉弘 様 より

少子高齢化が著しい春野町において、地域に伝わる昔話や伝説の伝承が年々困難になっている中、地域の高齢者から採録調査を行い書籍として記録に残していただくということは、文化財保護の観点からも大変重要なことでもあります。また、当事業に参加しているゼミ生にとっても、中山間地域の様々な高齢者から、生の声を聴いて取りまとめるという経験は、普段同年代の交流が主になる大学生にとっても大変貴重な体験になるものと思います。

##### 浜松市春野協働センター 生涯学習グループ 主任 岡村真里子 様 より

以前は寝などを昔話から紐解いて語り継がれてきていましたが、年々若者が減少し、そういった姿も見られなくなってきました。生活していくうえでなくてはならないそういった昔話を高齢者たちが学生へ伝えていく姿が頼もしく思えました。また、参加した高齢者達からも若者たちと交流することで「元気をもらった」という声が多く聞かれました。地域に根差した無形文化遺産として、書籍で多くの人に語り継がれていくことは素晴らしいことと思います。

##### 令和元年度の報道の記録（一部）

4月12日（金）	中日新聞	春野の昔話 聞き取り書籍に 文化芸大生 現地の69人から
4月19日（金）	静岡新聞	春野の昔話 後世へ 静岡文芸大生が出版 天竜のお年寄りから聞き取り
4月22日（月）	毎日新聞	「春野のむかしばなし」を出版 静岡文化芸術大生の3人 語り口調そのままに
5月19日（日）	静岡新聞	春野の昔話採録開始 静岡文化芸術大生 来春書籍出版へ
5月29日（水）	中日新聞	「犬居」の伝承採録 春野で文化芸大生 お年寄りから聞き取り
10月25日（金）	静岡新聞	「春野の鹿鍋」販売 静岡文化芸術大 2,3日に碧風祭 地元食材にこだわる
10月29日（火）	中日新聞	今年は春野の鹿鍋 静岡文化芸術大生 来月の学園祭で販売 地元酒に漬け込み
10月29日（火）	毎日新聞	春野伝統の鹿鍋を再現 静岡文芸大 学園祭で販売
11月1日（金）	読売新聞	学園祭で鹿鍋 郷土料理PR 静岡文芸大あすから 苦手な人も食べやすく